

EHJからのお知らせと祈りの課題

*新しいコースができました。「心のサプリ・ファーストステップ」

短いトークと分かち合い中心の形式、エリヤハウスに興味のなかった人でも気軽に参加できるスクール前の入門コースです。

未信者のお友達や家族の方々も参加しやすい、リラックスした雰囲気の下、祈りのミニストリーの教えを基に、8つのテーマでの分かりやすいトークが収録されているDVDとテキストを用います。

スクール修了されたファシリテーターによって開催することが出来ます。詳細は、エリヤハウス・ジャパン事務局までお問い合わせください。

*「こころの解放」のお求めは、イーグレープ、またオペレーションブレッシングまたは、エリヤハウス・ジャパンにお問い合わせください。

*セミナー・スクールなどそれぞれの教会のニーズに合わせて行うこともできます。是非事務局まで気軽にご相談、お問い合わせください。



EHJスクール・セミナー等予定表 (2020年～)

場 所	日 程
コースⅡA ニューホープ岐阜	岐阜市 (土日コース) 2020年春予定
コースⅡB 北見めぐみキリスト教会	北見市 4月14日～16日(火-木)
コースⅠA 札幌スクール(グレースコミュニティ)	札幌市 (平日週末)5月予定
コースⅠA 宮城スクール(拡大宣教学院)	宮城県 週末5月予定
コースⅠA 大津バプテスト教会	大津市 (平日週末)5月予定
紹介セミナー 小樽聖十字教会	小樽市 1月26日(日)

※パートナーシップ献金をお捧げくださった教会と推進メンバーのお名前(2019年5月～9月)(敬称省略)
大津バプテスト教会、シティビジョン・グローリーチャーチ、ニューホープ岐阜、グレースコミュニティ、エブリネイションチャーチ横浜、桐生キリスト教会、静岡サミル聖書教会、日之出キリスト教会、南紀キリスト教会、練馬グレースチャペル、本郷台キリスト教会、熊本ハーベストチャーチ、オペレーションブレッシング・ジャパン、(個人)井藤裕美子、中岡祐二・未都里、松田由美子、新野吉男、月井博、江口編子、秋山和男・正子、市川陽子、武田美帆、皆様の尊い献金を心から感謝いたします。

エリヤハウス・ジャパン会計報告 (2019年5月～9月分)

スクール受講料他・基礎講座料・アドバンス費	1,865,250
パートナーシップ献金・エリヤ月間献金・その他	1,681,698
書籍・オーディオ販売代、その他	248,832
収入合計	3,795,780
交通・宿泊(スクール・基礎講座・アドバンス他)	768,652
スクール・セミナー教材作成	109,980
人件費+ミニストリー謝礼	2,663,810
会報・広告・事務・通信・管理・積立	390,386
書籍・オーディオ購入費・その他	140,000
支出合計	4,072,828

(収入-支出=▲277,048)

EHJ 郵便振替口座番号: 02760-9-56943
EHJ 口座名: エリヤハウス・ジャパン
住所: 〒006-0832 札幌市手稲区曙2条2丁目4-22-102

尊い献金をお捧げ下さり、心から感謝致します。今後もエリヤハウス・ジャパンが日本の諸教会に仕えて行くための必要が満たされますようにお祈り下さい。



エリヤハウス・ジャパン事務局

■電話&Fax: 011-215-7258
■メールアドレス <E-mail>:
elijahhouse@infoseek.jp
■ホームページ: www.ehj.jp

発行責任者: 益田良一 (グレースコミュニティ)



Elijah House Japan

エリヤハウス・ジャパン会報 No.41

「主の道を備えよ」

2019年12月



グレースコミュニティ



お茶の水クリスチャンセンター



CFNJ 聖書学院

各地のセミナーでは 多くの方が参加されました。今日の社会で、うつや不安症、気分障害が増加しています。クリスチャンに及ぼす影響や身体、霊、そして魂の3つの分野に対するケアがいかに大切かが語られました。



DR グラント&キャシー・マレン師ご夫妻
グレースコミュニティにて

セミナーの後、普段祈りのミニストリーやニーズをもっておられる人々に関わっている方たちがマレン先生ご夫妻を囲んで質疑応答の時を持ち、多くの経験からお話をしてくださり、有意義な時となりました。



1,800円(+税)

*グラント・マレン師著の『こころの解放』がイーグレープより出版されています。「マレン博士は身体と精神、そして霊に対する処方箋を提供しています。私たちには教会と病院、牧会的カウンセラーと医師、双方が必要です。・・・もっと大切なことは、彼が「どうすればあなたも肉体的、精神的、そして心の面でも健康になれるか」を分かち合うことで、あなたにも大きな助けとなるということです。」

(本文一はじめに、から抜粋)

神様を知ることができた場所

自分の人生に起きているあらゆる問題は親との関係が影響していることは昔から薄々感じていた。しかし、どのようにして問題を解決するかわからず、神様に回復を求めて祈っていくなかで祈りのミニストリーの機会が与えられ、思ってもいないような状態に自分があったことがわかり、自分が理解していたものよりも遥かに深い問題がおきていたことがわかった。

私は高校から海外に出る前は、父、母、私の3人家族で生活をし、父は普通に仕事をして、母は専業主婦、外側を見ればごく一般的な中流の家庭だった。しかし内側は荒れ果てていて、母の統合失調症を原因とするあらゆる問題が幼少期から起きていた。留学して家を離れたのも親が子育てをできる状態じゃなくなったのも理由だった。

祈りのミニストリーで過去を振り返る中、感じたのは自分の過去はまるで他人の人生を見ているかのよう、全く自分の歩みとして実感が持てなかった。過去のことを聞かれても、何も思わないし、何も感じない。ただ出来事を頭で処理して、物事を現実的に論理的に理解してただけだった。感情が嫌いで、喜びも嬉しさも悲しさも怒りもすべてが嫌いで、ただただフラットな心を持っていたかった。出来事の一つ一つに感情で反応していたら自分が壊れてしまうから、当時は私にとって最善だった。母から身を守る最善の策だった。

自己防衛のために感情を捨ててしまったから自分の人生を生きている感覚がしない。何も感じない。

ただ燃え尽きて灰になったような感覚だった。自分がどう思う、感じるなど考えたこともない。神様とも本音で関われない。感情を持って関われないから、頭で先に考えて、自分が傷つかない安全で確実な祈りや歩みをする。神様の前に出る前、まず頭の中で事前に審議する。信じて飛び込むことはない。感情に触れなくてよい安全な祈りの道筋を模索し、警戒して、少しでもリスクを感じるとすぐに回避する。

そのようなどうしようもない状態だったが、祈りのミニストリーの中で出てきた思いは、神様の

前に本音を持って生きたい、たとえどれほど自分が腐っていても、このありのままに出ていきたいし受け止めてほしい。今まで多くの祈りを建前でしてきた。自分の思いや感情を無視して頭で考えた最善の祈りをしてきた。本音で祈りたい。ありのままの思いと感情を聞いてほしい。こんな燃え尽きた人生で悔しい。無念極まりない。心も体も疲れ切って死にたいと思うこともある。それも悔しい。こんな状態だからこそ、もう絶対に本音を隠して神様に関わりたくない。「神様、自分の人生の負の連鎖が悔しい。」心のそこからあらゆる自分の思いがこみ上げてきた。私は悔しい、私は悲しい、私は辛い、私は腹立たしい、私は痛い、私は嫌だ。神様が許してくださったその時間で、子供のような自我が飛び出てくるように思いがこみ上げてきた。

スクールでの礼拝は今までの自分にはなかったもの。まさに一言で表すと「私は神様を礼拝している」。遠くから礼拝している自分を見るのではなく、神様の前に私自身で出ていられる。神様に受け止められ、感情が豊かになってきた。自分が神様の前に出られるようになってきた。不思議と健全な罪意識も持てるようになってきた。今までは罪は仕方がないもの、自分にはどうしようもなかった、回避できなかった、という思いが常にあった。今は、自分は神様の道を外れている、御心じゃないことを行っている、と罪を示されたときは意識を持って神様の前で悔い改められるようになった。正直今でも問題は完全に解決はしていない。引き続き自分には母親がいるという感覚がない。



しかし、今の状態が自分に最善だということを受け取った。次の回復は時が来たら神様が用意していてくださる。問題の解決は、早く一瞬にして終わることが最善ではないことを受け取った。なぜなら問題解決のプロセスで神様を知るから。自分にとって親の問題は神様を知る機会だから、一瞬に解決してもらってもむしろ困ってしまう。神様を十分に知らずして終わったのなら、すべてが無意味になってしまう。解決を急ぐ必要がないことも最大の気付きと癒やしであった。 岩崎太亮

わが愛する者 美しい人よ出ておいで

私は、小さいころからずっと「死にたい気分」を抱えて生きてきました。死ぬことを望んでいるわけではなく、ことあるごとに「失敗してしまった、死なないと・・・」「迷惑をかけてしまった、死んでお詫びをしなくては」「あの人からネガティブの雰囲気が出ている、私が死ねばいいのでは」という思いが湧き上がるのです。

いつから始まったかは覚えていましたが、その頃の私には死にたくなるような理由がなかったので、ずっと不思議に思っていました。「死にたい気分」が始まったのは小学校1年生の学校からの帰り道でした。私は「自分が生きていても食費とかがかかるだけだ。死んだ方が良い」と考えました。「でもお父さんとお母さんが悲しむから死んじゃいけない」と思い直したのですが、その後「私が生きている分で、生きていたいけど死んでしまう人が1人生きられたらいいんだ」と思いつきました。頭にあったのはアフリカで飢えて死んでしまうかわいそうな子どもたちでした。私にはすっきりと腑に落ちて、良い考えが浮かんだと嬉しい気持ちになっていました。自分のいのちを使って他人を救おうとしてしまい、それ以降「いのちというのは対価として消費するもの」と捉えるようになりました。現在、精神科で勤めているのですが、それも「精神科の患者さんのためならば私の人生を使っても良い」と考え選択しました。

ミニストリーの中で、小学校1年生の帰り道に偽りが吹き込まれて生きることに背を向け、私の霊が牢獄にとらわれてしまったのではと指摘されました。確かに、その直前のセッションの『霊が囚われている状態』を聞いていて、「まるで私だ。違うのは、ガラスの壁は感じないこと、めまいはしないこと、識字障害がないことの3つだけ。でも急に思っただけだからミニストリーの中では話さなくてもいいか」と思っていたのです。

そこで、私を閉じ込めていた牢獄をイエス様の十字架で打ち砕き、祈りました。また、「私のいの

のちは主のもの」「イエス様のいのちで、イエス様と一緒に人を救う」という真理を受け取りました。巢穴を失ったような所在なさと、もやが晴れたような感覚がありました。グループのメンバーは、表情が変わったと言ってくれました。嬉しい一方で「今は祈った直後だから気持ちが盛り上がっているしなんととも言えない」とも思っていました。

ところで、私は賛美が好きなのですが、どうしても受け入れることのできない賛美が1つありました。『わが愛する者』という賛美で「わが愛する者 美しい人よ 出ておいで さあ」という歌詞に疎外感を感じ、必ず歌えなくなるのです。



ミニストリーで祈った1週間後、週末スクールの後半、嬉しい変化がありました。こっそり泣くほど嫌だった『わが愛する者』を、嬉しい気持ちで最後まで賛美することができました。牢獄から出られずに苦しんでいた私に、イエス様が呼びかけていたことを受け取りました。長く「死にたい気分」とともに生きて来たので、そっち側に引っ張られることはありますが、そのたびに真理を握り直して歩んでいきます。

札幌スクール 片岡弘美